

重要文化的景観の選定

《重要文化的景観の新選定》 2件

1 いばないこ のうそんけいかん 伊庭内湖の農村景観【滋賀県東近江市】

湖東平野中央部に位置する伊庭内湖，水路が発達した集落と周辺の水田，きぬがさ 織山の一峰である伊庭山いばやまからなる。伊庭集落は，琵琶湖最大の内湖であった大中の湖だいなかこに流入する伊庭川の三角州上の微高地に形成された集落であるが，内湖の干拓を経て，現在は伊庭内湖と呼ばれる大中の湖西端部，須田川となった小中の湖北端部に接する。集落東の織山の豊かな湧水を源流とする伊庭川が集落中央を西へ流れ，縦横に発達した水路を介して水田に分水し伊庭内湖に注ぐ。近世，集落は現在の小字に継承される独立性の高い七つの町で構成されており，町の境界の多くは主要な水路と重複することが確認できる。水路の水は農業のみならず，各敷地から水路に延びる階段状のカワトを介し，魚の畜養など生活の中で利用されている。自動車の普及以前は舟運が中心で，水路を日常生活の主要経路とする屋敷構えが行われた。土地を最大限に利用するため，水路の石積み直上に建てられた「岸建ち」と呼ばれる建造物も特徴である。伊庭山から神輿を引きずり下ろし，集落を経由し伊庭内湖まで巡行する伊庭祭では，かつては水路を経路としていた。

伊庭内湖の農村景観は，琵琶湖岸における水の利用及び居住の在り方を知る上で欠くことのできないものとして重要な景観地である。

2 きただいとうじま りんこうやまゆらい ぶんかてきけいかん 北大東島の燐鉱山由来の文化的景観【沖縄県島尻郡北大東村】

北大東島は沖縄本島東方約360kmに位置する隆起珊瑚礁を起源とする地形を持つ南洋の離島であり，明治期に入って開拓が始まった歴史を持つ。特に，化学肥料の原料となる燐を多く含むグアノ（鳥糞石）が広く堆積していたことから，大正時代から戦後直後にかけて燐鉱石採掘が盛んに行われた。現在も島の北西部に位置する西港周辺では，採掘場，トロッコ軌道，燐鉱石貯蔵庫，船揚げ場等の燐鉱石採掘に関連する一連の生産施設が国内唯一残り，当時の社宅及び福利厚生施設等の生活関連施設が住宅群や民宿として継続的に利用されている。これらの施設では，珊瑚が風化して生成されたドロマイトの白い切石が多用されており，独特の景観を呈している。現在の北大東島の主産業はサトウキビ生産であるが，技術発展とともに近海漁業も盛んになりつつあり，西港周辺ではサトウキビ畑・ため池が広がる一方，往時の施設を利用した魚市場及び水産加工施設が点在する。日本列島南方の特殊な風土によって形成された離島において，大正時代から戦後直後にかけて燐鉱採掘が行われていたこと及びその後の産業変遷を知る上で重要な景観地である。

《重要文化的景観の追加選定》 1 件

1 アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観【北海道沙流郡平取町】

アイヌの伝統と近代開拓による沙流川流域の文化的景観の既選定区域に加えて、沙流川流域のアイヌ文化の伝承が地名として残り、明治以来施業林とされ、現在は国有林として管理されている部分（約2300ha）を追加選定する。